福井大学リポジトリ
UNIVERSITY OF FUKUI REPOSITORY

地方都市郊外部の都市的活性化のための一考察

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2011-10-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 本多, 義明, 村松, 俊明, 船川, 功, HONDA, Yoshiaki, MURAMATSU, Toshiaki, FUNAKAWA, Isao メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10098/4298

福井大学
工学部　研究報告
第34巻　第2号
昭和61年9月

地方都市郊外部の都市的活性化のための一考察

本多義明*　村松俊明**　舟川　功*

A Consideration on Vitalization in the Suburban District of the Local City

Yoshiaki HONDA, Toshiaki MURAMATSU, Isao FUNAKAWA

(Received Aug.11,1986)

This study is carried out to consider the vitalization in the suburban district of the local city. Firstly, Morita district is chosen as the study district and the existing states of the district are grasped to clarify the planning subjects. Secondly, the questionnaire is carried out to the residents at the district. Then daily behavior and consciousness for environment and facility on the district are studied.

Finally, basing on the above, the some schemes of the vitalization in the district are presented.

1　はじめに

近年，地方都市の活性化については全国的な都市政策のひとつの重要課題として注目を集めている。とくに，地方都市中心部の活性化については，再開発をはじめとする諸施策の立案とともに，各市とも21世紀を目指してアーバニィティーの向上のため積極的に取組んでいる。しかしながら，地方都市郊外部については各市ともに，その将来構想による位置づけは明確ではなく，単に都市中心部に適さなくなった施設の郊外移転のための受皿的役割りを果しているにすぎない。特に，これら郊外部はかつて母都市とは独立した自治体として，ひとつのコミュニティーを成立させていたところが多く，モータリゼーションの進展とともに，母都市の外縁をなす地域として一体化されている。このような状況の中で，郊外部は市街地外延化による無秩序な市街化，商業を中心とした都市

*　建設工学科
**　(財)地域環境研究所

機能の依存と流出，都市の出入口としての通過交通による地域分断などの問題を呈している。本研究では，地方都市郊外部の諸問題解決のため，その活性化に向けての基礎的考察を行うものである。

2　地方都市郊外部の計画課題

2.1　森田地区の概要

本研究で対象とした森田地区は福井市の北部に位置し，福井市中心部から10km圏内にあるが，一級河川九頭竜川によって福井市市街地と分断される形となっている。

地区の沿革をみると，九頭竜川の舟運と北陸街道の陸運が交差する地理的条件から，中世以降，宿場町および交易地として発達した。しかし，明治に入って九頭竜川架橋，国鉄北陸本線の開通に伴ない急速に宿場町，交易地としての機能は衰退した。その後，明治末期より福井地域で隆盛となった機業が発達し，県下有数の機業地となり，それに伴ない人口が急増し，昭和10年に町制が実施され，昭和42年には福井市と合併し今日に至っている。

2.2　地区の現況

土地利用の現況をみると，九頭竜川寄りの地区南部の旧市街地部を中心に近年立地した住宅団地，工業団地を取りこむ形で市街化区域が指定されており，その用途地域は住居地域を中心として準工業地域が混在する地域指定となっている。また，市街化区域内の土地利用現況は，南部の旧市街地部において利用地率，建ペイ率が高く，用途別では工業地率が30％を越えており，福井市市街化区域の中でも木造家屋の密集および工場の混在が目立つ地区となっている。

人口についてみると，昭和40年代半ばから後半にかけて一時減少を示した時期を除けば，経年的に増加傾向にあり，昭和60年次における人口は10,423人，10年間の増加率は3.6％である。地区内における人口の動向をみると，旧市街地部では若干減少傾向を示しており，その周辺部において増加が目立っている。また，人口密度は，昭和60年において1,700人/km^2であり，福井市全体の732人/km^2を大きく上回っており，福井市の中でも人口の高密な地区の1つにあげられる。

産業についてみると，事業所従業者の70％弱を第2次産業が占めており，明治末期より集積した繊維工業を主体とする第2次産業中心の産業構造となっている。また，基幹産業的存在である繊維工業の事業所従業者規模をみると，そのほとんどが中小・零細事業所で占められており，福井地域に伝統的な家内工業的色彩を強く残している。しかしながら，旧市街地西南部には，地区における大規模施設として仁愛女子短期大学が立地しており，大学関連だけで日常的に500人強の集中がみられ，地区の都市活動，街の雰囲気等における大きな特色となっている。

つぎに，地区をとりまく交通についてみると，国鉄北陸本線，広域的幹線道路である鯖江丸岡線が地区の中央部を，また広域的幹線道路嶺北縦貫線が地区の西側をいずれも南北に縦断しており，いわば福井地域における広域的な交通幹線軸が地区内を通過しているといえる。これに対し，東西方向では県道が2路線あるものの，南北方向に比して道路条件等で弱体となっている。また，公共輸送では，国鉄北陸本線森田駅が地区内に設置されており，南北方向の広域的幹線道路を中心にバスが運行されているが，国鉄森田駅の乗客数は漸減傾向にある。いっぽう，地区内の道路網については，前述の南北，東西方向の幹線道路を除けば，多くは狭幅員の細街路であり，とくに旧市街地部においてこの傾向が顕著となっている。

2.3　地域社会の実態

ここでは，地方都市郊外部の都市的活性化に向けて住民の意識，意見等を把握するため実施したアンケート調査結果をもとにして，森田地区における地域社会の実態を明らかにする。

なお，実施した住民アンケート調査の概要については，以下に示すとおりである。

(i)調査対象：森田地区に居住する20才以上の住民

(ii)抽出方法：単純無作為抽出

(iii)調査時期：昭和61年１月

(iv)調査方法：留置法

(v)総配布数：477票

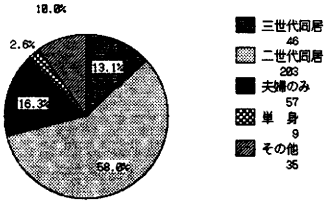
(vi)回　収　数：378票（有効回収率79.2％）

まず，家族形態についてみると，「二世代同居」が58.0％と過半数を占め，ついで「夫婦のみ」16.3％，「三世代同居」13.1％となっており，三世代同居の割合が比較的高いことと，単身世帯の少ないことが特徴となっている（図－１）。

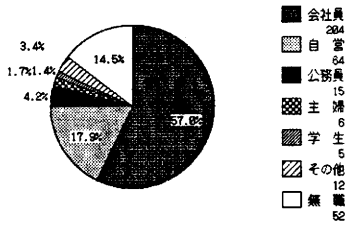
つぎに職業については，約80％強が就業しており，会社員が57.0％と最も多く，ついで自営の17.9％となっており，雇用形態は本雇用が約90％を占め，近年増加傾向にあるパートは8.7％にすぎない（図－2,3）。

また，勤務先をみると，森田地区を除く福井市が49.2％と半数を占め，地区内は33.6％であり，福井市への通勤が目立っている（図－４）。

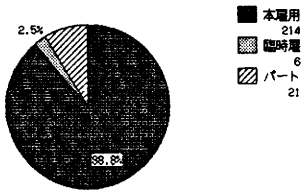
福井地域においては女性の有業率が全国的にも高く，共働き率は76.8％と全国で第１位となっているが，森田地区においては今回調査によれば共働き率60.8％と福井県のそれより低い割合を示し



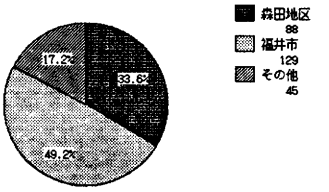
図－１　家族形態



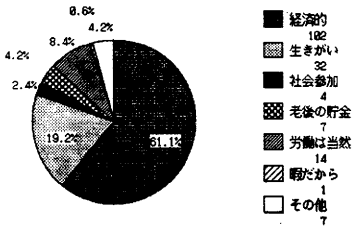
図－２　職　　業



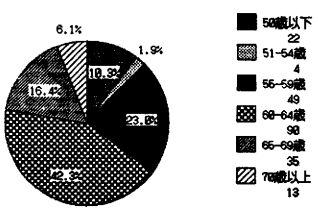
図－３　雇用形態



図－４　勤務先の住所



図－５　共働きの理由



図－６　定年年齢

ている。また，図－5より，共働きの理由をみてみると，「経済的理由」が61.1％と圧倒的に多くを占めており，以下「生きがい」が19.2％，「労働は当然」が8.4％となっている。

就業条件のうち定年制についてみると，全体の71.0％が定年制があると答えており，また，定年年齢については，60～64才が42.3％と最も多く，ついで55～59才の23.0％，65～69才の16.4％となっており，比較的定年年齢は高いといえる（図－6）。

2.4　森田地区における計画課題

計画課題の考察に先立ち，森田地区が福井市の郊外部に位置するという地理的条件から派生する地区の構造的特質について，前節でみてきた地区の現況および地域社会の実態をもとに考察するとつぎのことがいえる。

1つは，母都市ともいえる福井市の市街地外延化に伴ない宅地化が進行しており，旧市街地と新市街地との連担，分担関係が欠如したまま，いわば無秩序的に市街地が形成されている。

2つには，就業，就学機会の量的，質的不足により福井市への通勤・通学が増大しており，また同様の理由により購買額の流出が拡大しているなど，福井市への依存度を高めている。

3つには，福井市への南北方向の交通幹線軸上に位置しているため，地区内の交通流動の多くは通過交通であり，いわば交通幹線軸における通過地点の位置づけにある。

すなわち，森田地区のかかえる問題および計画課題の多くは，この3つの構造的特質から発生しているといえる。そのため，第1の特質に対する計画課題としては，旧市街地と新市街地あるいは福井市市街地との連担，分担を明らかにした上で，地区全体の居住環境，都市基盤等の向上があげられる。

また，第2については，森田地区における基幹産業である繊維産業の停滞傾向および中心商業地の未形成などがその主な原因と考えられるため，既存産業を活用した産業振興，先端産業の誘致等産業政策の推進および地区の商業核づくりを中心とする第3次産業の充実が都市的活性化に向けて基盤的な計画課題となろう。それとともに，大規模集中施設である仁愛女子短期大学の活用が，活性化に向けての大きな要素に位置づけられよう。

第3の特質については，地区内を縦横断する幹線道路のピーク時における定常的な渋滞を惹起する原因となっており，円滑かつ安全な地区内交通の確保のため，通過交通の地区内流入を抑制することが計画課題としてあげられる。

3　森田地区における行動実態

ここでは，前述した住民アンケート調査をもとに，森田地区住民の行動実態として，日常生活行動および余暇行動の実態を明らかにする。

3.1　日常生活行動

前述したように調査対象の80％強が就業していることから，まずはじめにその行動実態についてみることとする。1日の労働時間は図－7に示すとおりであるが，これをみると，「8時間」が43.3％と最も多く，以下「6時間」の20.2％，「10時間」の12.6％，「9時間」の11.0％の順になっており，全体の70％強の人が1日の1/3以上の時間を労働時間で占められている。

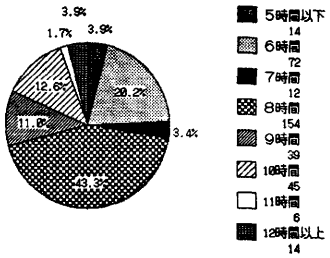
また，通勤についてみると，片道の通勤時間は図－8に示すが，「9分以下」が52.9％と半数を占め，ついで「10～19分」の22.0％，「20～29分」の12.4％の順である。森田地区を除く福井市へ

の通勤が約半数を占めるものの福井市中心部とも至近な距離にあるため，通勤時間としてはむしろ少ない人が多いといえる。つぎに，通勤手段については，図－9に示すとおりである。これをみると，自動車利用（運転）が圧倒的に多く，その分担率は51.3％と過半数を占めている。これについで，「2手段利用」が15.8％，「自転車利用」9.2％，「徒歩」6.7％となっており，福井地域における自動車保有率の高さを裏づけている。

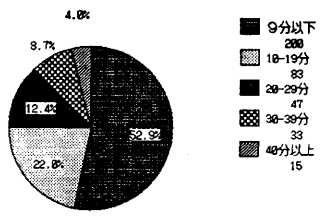
つぎに，平日の自由時間をみると，就業者と非就業者合計では「2時間」が33.0％を占めて最も多く，以下「3時間」の28.5％，「1時間」の12.0％，「4時間」の11.7％の順となっている（図－10）。また，これを共働きしている女性としていない女性についてみると，図－11に示すごとくとなる。これをみると，当然のことながら共働きしていない人の方が全般的に多く，「4時間以上」の割合をみると共働きしている女性の10.8％に対し，共働きしていない女性では40.5％となっており，平日の自由時間における格差が目立っている。

3.2 余暇行動

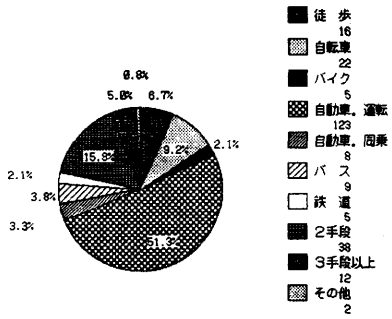
まず，休日の自由時間についてみると，全体では図－12に示すとおりであり，「10時間以上」が22.3％で最も多く，ついで「5時間」の20.5％，「4時間」の14.2％，「6時間」の11.0％となっている。また，共働きしている女性としていない女性の休日の自由時間は，図－13に示すとおりである。これをみると，共働きしている女性では「5時間」が最も多く，していない女性では「4時間」が最も多くなっており，また，前者では「5時間以上」が約60％と過半数を占めているのに対し，後者では「4時間以内」が逆に約60％を占め，平日とは異なり共働きしている女性の方が全般に自由時間が多くなっている。



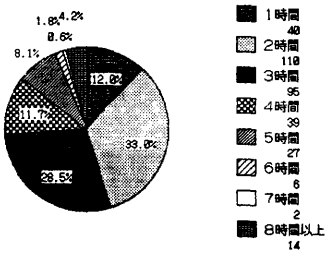
図－7　1日の平均労働時間



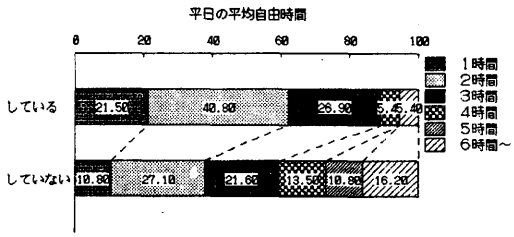
図－8　片道の通勤時間



図－9　通勤手段



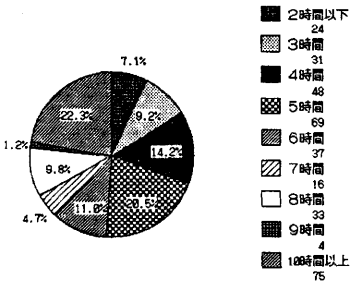
図－10　平日の平均自由時間



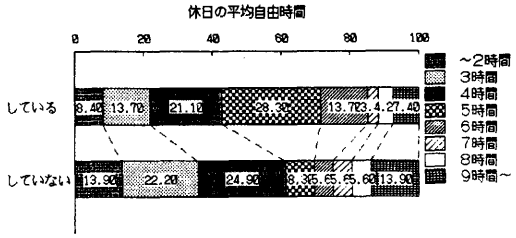
図－11　平日の平均自由時間
（共働きしている，していない女性別）

つぎに，余暇のすごし方を第1位，第2位別にみると図－14に示すごとくであり，第1位では，「テレビ視聴」が37.5％と最も多く，ついで「趣味」の17.4％，「買物」の14.9％，「子供との遊び」の14.0％となっている。第2位についても「テレビ視聴」が最も多いが，比率はかなり低くなっている。しかしながら，つぎに多い過ごし方では，第1位と異なり「買物」の23.6％となっている。

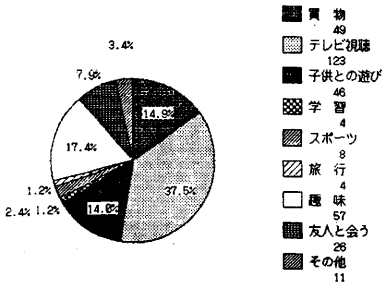
また，余暇のすごし方を共働きしている女性としていない女性別にみたのが，図－15である。これより，第1位についてみると，共働きしている女性がしていない女性に比べて「テレビ視聴」，「買物」で過ごす比率が高いが，「趣味」，「子供との遊び」では共働きしていない女性の方が高い比率となっている。第2位では共働きしている女性の「趣味」，していない女性の「友人と合う」といった過ごし方が，それぞれ第1位と比べて高い比率となっている。以上のような共働きしている女性としていない女性との間の余暇の過ごし方の差異は，休日より平日における自由時間の格差によるものと考えられる。



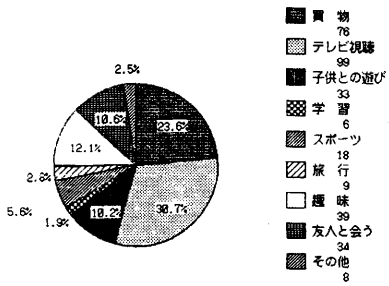
図－12　休日の平均自由時間



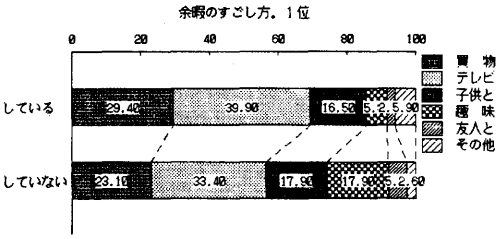
図－13　休日の平均自由時間
（共働きしている，していない女性別）



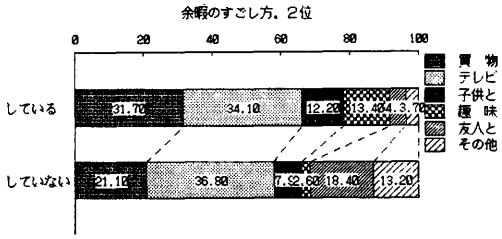
図－14(a)　余暇のすごし方（第1位）



図－14(b)　余暇のすごし方（第2位）



図－15(a)　余暇のすごし方（第1位）
（共働きしている，していない女性別）



図－15(b)　余暇のすごし方（第2位）
（共働きしている，していない女性別）

4　地区住民の環境，施設および将来についての意識

4.1　環境，施設の評価に関する要因分析

森田地区の環境，施設の評価に対する要因分析として，共働きをしている人としていない人とに分けて，数量化理論第２類を用いて行った。

その結果，表－１に示すように共働きをしている人の場合には，レンジが高い順から「文化的施設は十分あると思いますか」「商店の業種や店数には満足していますか」「スポーツ，レジャー施設は十分あると思いますか」となっており，偏相関係数の順位もこれとほぼ一致している。また，共働きをしていない人の場合には，表－２に示すように，レンジが高い順から「スポーツ，レジャー施設は十分あると思いますか」「文化的施設は十分あると思いますか」「歩行空間には満足していますか」となっており，偏相関係数の順位も一致している。

したがって，総合的にみて不満足であるという評価に大きく影響しているものとしては，共働きをしている，していないにもかかわらず，文化的施設やスポーツ，レジャー施設といった要因があげられ，共働きをしている人の場合にはこれらに商店の業種や店数が含まれ，共働きをしていない人の場合には歩行空間が含まれる。

表－１　総合評価に及ぼす要因分析…共働きをしている人（数量化理論第Ⅱ類）

η =0.367

要　　因	カテゴリー	データ数	スコア	レンジ	偏相関係数
商店の業種や店数	１．満足	49	-0.369	1.012	0.265
	２．不満足	109	0.303	(2)	(1)
	３．わからない	21	-0.709		
緑地空間	１．満足	46	-0.333	0.839	0.217
	２．不満足	113	0.241	(4)	(3)
	３．わからない	20	-0.598		
文化的施設	１．十分ある	9	-1.154	1.320	0.233
	２．十分ない	143	0.166	(1)	(2)
	３．わからない	27	-0.497		
スポーツ・レジャー施設	１．十分ある	10	0.025	0.986	0.196
	２．十分ない	151	0.104	(3)	(4)
	３．わからない	18	-0.882		
歩行空間	１．満足	53	0.036	0.464	0.128
	２．不満足	92	0.110	(5)	(6)
	３．わからない	34	-0.354		
公共交通空間の便	１．良い	130	-0.121	0.454	0.143
	２．悪い	44	0.333	(6)	(5)
	３．わからない	5	0.220		
積雪時の影響	１．少ない	35	-0.261	0.335	0.095
	２．多い	134	0.074	(7)	(7)
	３．わからない	10	-0.073		
総合評価	１．満足	32			
	２．不満足	125			
	３．わからない	22			

表－２　総合評価に及ぼす要因分析…共働きをしていない人（数量化理論第Ⅱ類）

η =0.536

要　　因	カテゴリー	データ数	スコア	レンジ	偏相関係数
商店の業種や店数	１．満足	35	-0.121	0.567	0.175
	２．不満足	67	0.145	(5)	(5)
	３．わからない	13	-0.422		
緑地空間	１．満足	29	-0.087	0.154	0.056
	２．不満足	69	0.020	(7)	(7)
	３．わからない	17	0.067		
文化的施設	１．十分ある	4	-1.605	1.774	0.329
	２．十分ない	93	0.169	(2)	(2)
	３．わからない	18	-0.516		
スポーツ・レジャー施設	１．十分ある	7	0.101	1.917	0.493
	２．十分ない	90	0.313	(1)	(1)
	３．わからない	18	-1.604		
歩行空間	１．満足	35	-0.225	0.755	0.241
	２．不満足	55	-0.098	(3)	(3)
	３．わからない	25	0.530		
公共交通空間の便	１．良い	68	-0.067	0.248	0.103
	２．悪い	37	0.149	(6)	(6)
	３．わからない	10	-0.099		
積雪時の影響	１．少ない	10	-0.577	0.659	0.212
	２．多い	99	0.082	(4)	(4)
	３．わからない	6	-0.387		
総合評価	１．満足	7			
	２．不満足	89			
	３．わからない	19			

4.2 将来についての意識

前述のアンケート結果より，将来に備えて何もしていない人が全体の64％を占めており，自分の将来に対する意識はうすいように思われる。そこで，将来の希望施設，施策についての分析として，数量化理論第３類を用いて行った。

その結果から，表－３に固有値が１位，２位である第１次元解，第２次元解について，その固有値および質問の得点を示す。また，図－16に第１次元解と第２次元解との関係をそれぞれＸ１軸，Ｘ２軸として表わす。

まず，Ｘ１軸（固有値0.446）についてみると，得点が大きいほど「ケア施設」「生涯教育講座」「文化センター」等の文化的施設，得点が小さいほど「公共交通の無料化」「医療費の無料化」等の公的サービスとなっている。Ｘ２軸（固有値0.404）については，得点が大きいほど「ケア施設」「ホームヘルプ制度」等の介護関連，得点が小さいほど「雇用機会の増加」「スポーツ，レジャー施設」等の活動関連となっている。

したがって，各軸を解釈すると，Ｘ１軸は施設，施策の種類（文化的―公的サービス），Ｘ２軸は施設，施策の内容（介護関連―活動関連）となる。

つぎに，Ｘ１，Ｘ２軸について属性別のスコアを求めたところ図－17のようになった。以下に各属性別の特徴を示す。

ａ．性別：男性は文化的および活動的施設，施策を，女性は公的サービスや介護施設，施策を求める傾向にある。

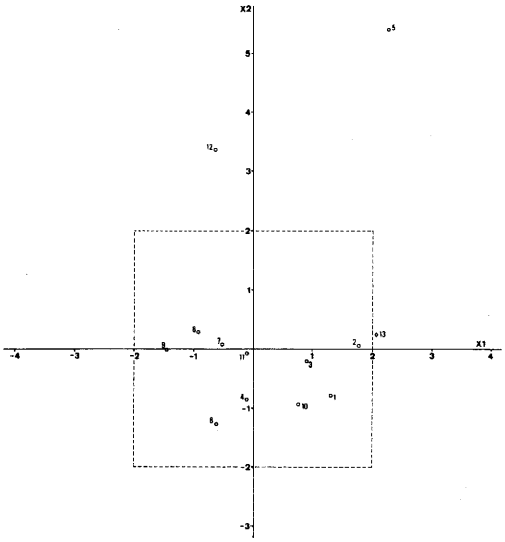
ｂ．年齢：59歳以下には特徴はみられないが，60歳以上は介護施設，施策を求める傾向にある。

ｃ．職業：会社員および自営には特徴はみられないが，公務員および学生は文化的施設，施策を主婦および無職は公的サービスを求める傾向にある。

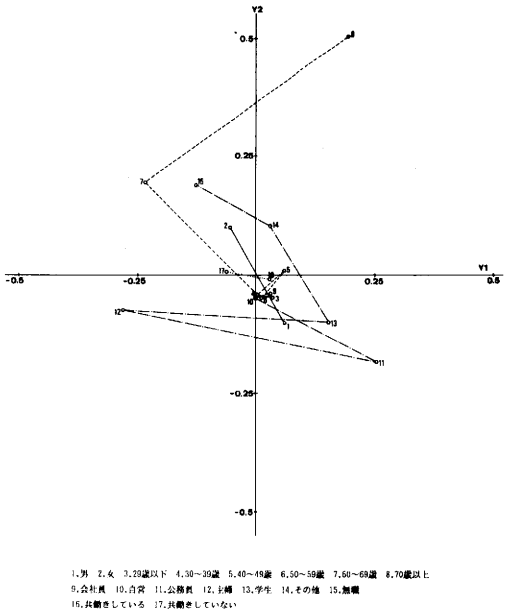
ｄ．共働き：共働きの有無にかかわらず，特徴はみられない。

表－３　数量化理論第Ⅲ類による質問の得点

質問内容	データ数	Ｘ１	Ｘ２
スポーツ、レジャー施設	112	0.7657	-0.9339
文化センター	69	1.7742	0.0612
工芸センター	33	0.9034	-0.2289
レクリエーション農園	54	-0.0702	-0.8805
ケア施設	14	2.2817	5.4174
雇用機会の増加	45	-0.6170	-1.2683
年金制度の充実	234	-0.5142	0.0746
医療費の無料化	174	-0.9311	0.2757
公共交通の無料化	55	-1.4488	-0.0014
交通施設の改善	33	1.2988	-0.7889
健康管理制度	132	-0.0717	-0.1105
ホームヘルプ制度	32	-0.6423	3.3667
生涯教育講座	47	2.0712	0.2418
固有値		0.4459	0.4036



図－16　将来の希望施設，施策についての分析



図－17　属性別の希望施設，施策についての分析

5　都市的活性化の方策

現在，福井市では市中心部および第2環状道路沿道を中心に，商業施設立地等の開発が進んでいるが，第2環状道路の外側に位置する福井市郊外部の森田地区は，これらの地区に比べて開発が遅れているという状況である。

そのため，ここでは前述の計画課題をもとにして，さらには高齢化社会，情報化社会，成熟化社会の到来が予想される21世紀社会を展望して，森田地区を福井市のサブ・コア的機能をもつ地区として位置づけるような活性化の方策を，(1)既存施設の利用，(2)新規開発の2つの側面から検討する。

5.1　既存施設の利用による方策

森田地区には現在，八重巻ショッピングセンター，国鉄森田駅，仁愛女子短期大学，旧道の商業施設等の施設が存在するが，森田地区の活力，都市的アメニティを高めていくためには，これらの既存施設を相互的に活用し，森田地区の核づくりを推進することが望ましいと考えられる。

具体的には，近年高まりつつある文化志向，健康志向等のニーズに対応するため，文化機能，レジャー機能等の複合機能をもった商業系空間を八重巻ショッピングセンターを中心に形成し，旧道の路線型の商業機能とも連担性をもたせる。また，情報化社会の到来に対応するため，国鉄森田駅を中心に駅施設，遊休地等を活用し，情報提供基地として駅地区のポテンシャルを高める。

また，このような機能配置に基づいて核づくりを進めるにあたっては，諸機能を緊密かつ有機的に結び，機能の総合化を図ることが不可欠である。そのためには，地区内交通における主要な交通手段である徒歩，自転車のための安全かつ快適な空間の確保と，諸機能を効果的に連絡した歩行者系空間のネットワーク化を図る。すなわち，歩行者系空間として旧道，北陸本線沿いの中角森田停車場線等を活用し，人の流れの多い仁愛女子短期大学～八重巻ショッピングセンター・国鉄森田駅，人の動線に対応して旧市街地～八重巻ショッピングセンター・国鉄森田駅を重点的に結ぶ歩行者系

ネットワークの形成を図る。そのためには，歩道，自転車道等の量的・質的水準の向上が必要である。（図－18参照）

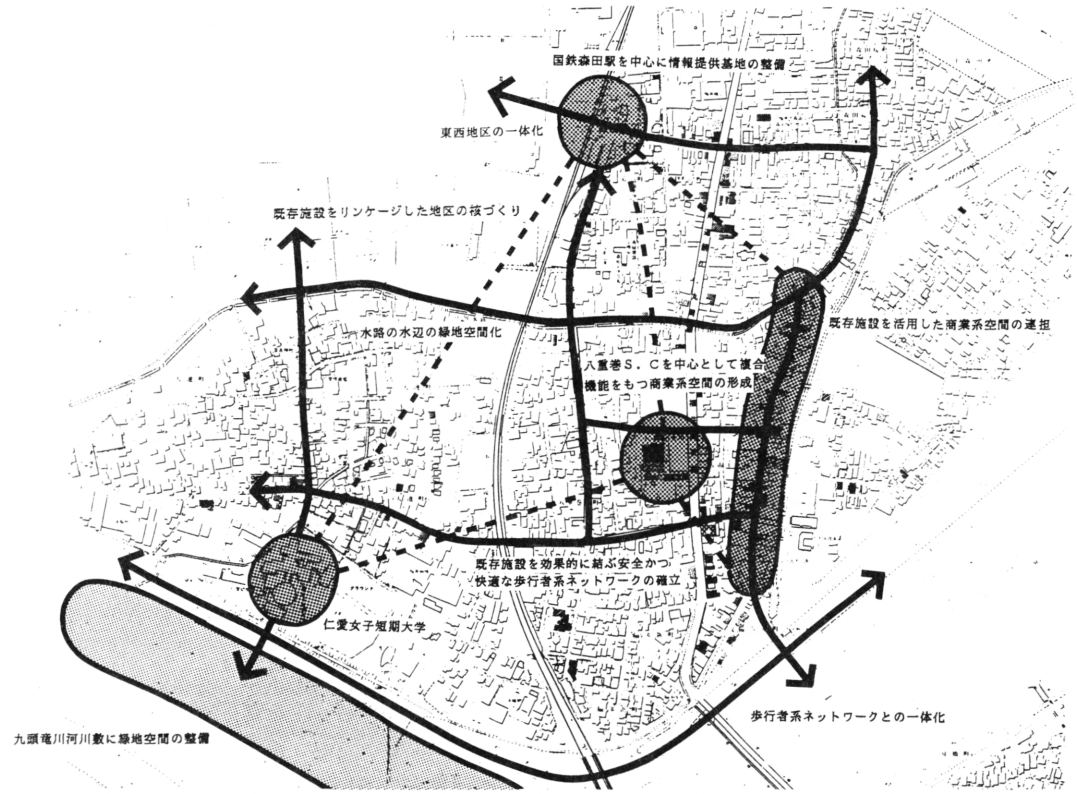
5.2　新規開発による方策

森田地区の旧市街地は木造家屋の密集地区であるため，良好な環境やすぐれた景観を創出し，また，高まりつつある自然志向に対応して，住民にうるおいとやすらぎをもたらすため，緑地空間の整備を進める必要がある。

具体的には，九頭竜川河川敷および水路の水辺等を利用して，緑地空間の確保を図る。その利用例として，河川敷については健康志向のニーズに対応して，地区外からも人を吸引するアウトドアタイプのトレーニングセンター，パブリックゴルフ場，水路の水辺については散策路，いこいの場などの利用がそれぞれ考えられる。さらに，これらの緑地空間が有効に利用されるために，旧市街地とのつながりを強化するとともに，前述の歩行者系ネットワークに緑地空間を組み込んで相互活用がなされるようにする必要がある。（図－18参照）

また，森田地区の核づくりの対象となる地区には，現在，鯖江丸岡線，中角森田停車場線がそれぞれ縦横断しているが，これらの路線の通過交通の流入を抑制し，地区内における交通錯綜を少なくするとともに，慢性的な交通混雑を解消するため，九頭竜橋を代替する新橋の建設を図る必要がある。

さらに，前述2路線への通過交通の集中を抜本的に分散させるため，福井市郊外および近郊の市



図－18　都市的活性化の方策

郡を環状に結ぶ第3環状道路の整備を進めていく必要がある。この整備により，市街地における交通機能の分化，純化，市街地内の沿道環境の保全および安全性の向上などの効果が期待され，さらに，この環状道路により一点集中型都市構造から多核分散型都市構造への転換が促進される。その整備例として，福井空港と至近な位置にある八重巻・定正工業団地を臨空型工業として活用することを考慮して，森田―福井医科大学―松岡―東郷―杉の木台―清水―九頭竜工業団地―森田といった環状ルートが考えられる。

6 まとめ

本研究は，福井市郊外部に位置する森田地区の現況および地域社会の実態から，当地区の構造的特質を把握し，つぎに，森田地区住民の対するアンケート調査の集計および解析を行ったうえで，21世紀社会を展望した地方都市郊外部の活性化に向けての方策を，既存施設の利用と新規開発の2つの側面から検討した。

なお，本研究を進める過程で，R＆A総合計画研究所所長の松本隆二氏および(財)地域環境研究所研究員の村本清美嬢の協力を得た。ここに深く感謝の意を示すものである。また，アンケート調査の集計および解析には，名古屋大学大型計算機センターのシステムを用いた。

参考文献

1) 総合研究開発機構：地方都市活性化の方策，1986.

2) 福井地域環境研究会：REF第6号，1986.